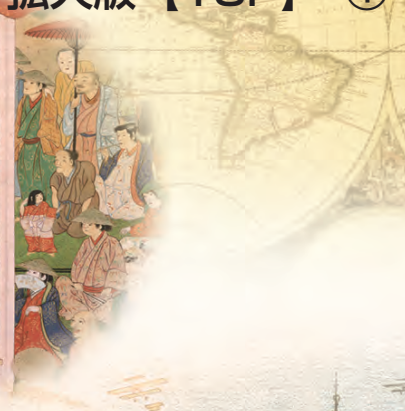


社会科

中学生の 歴史

日本の歩みと世界の動き
拡大版【18P】 ①

中 社会科 中学生の歴史
日本の歩みと世界の動き
(歴史 732)
拡大版【18P】(全7分冊)①

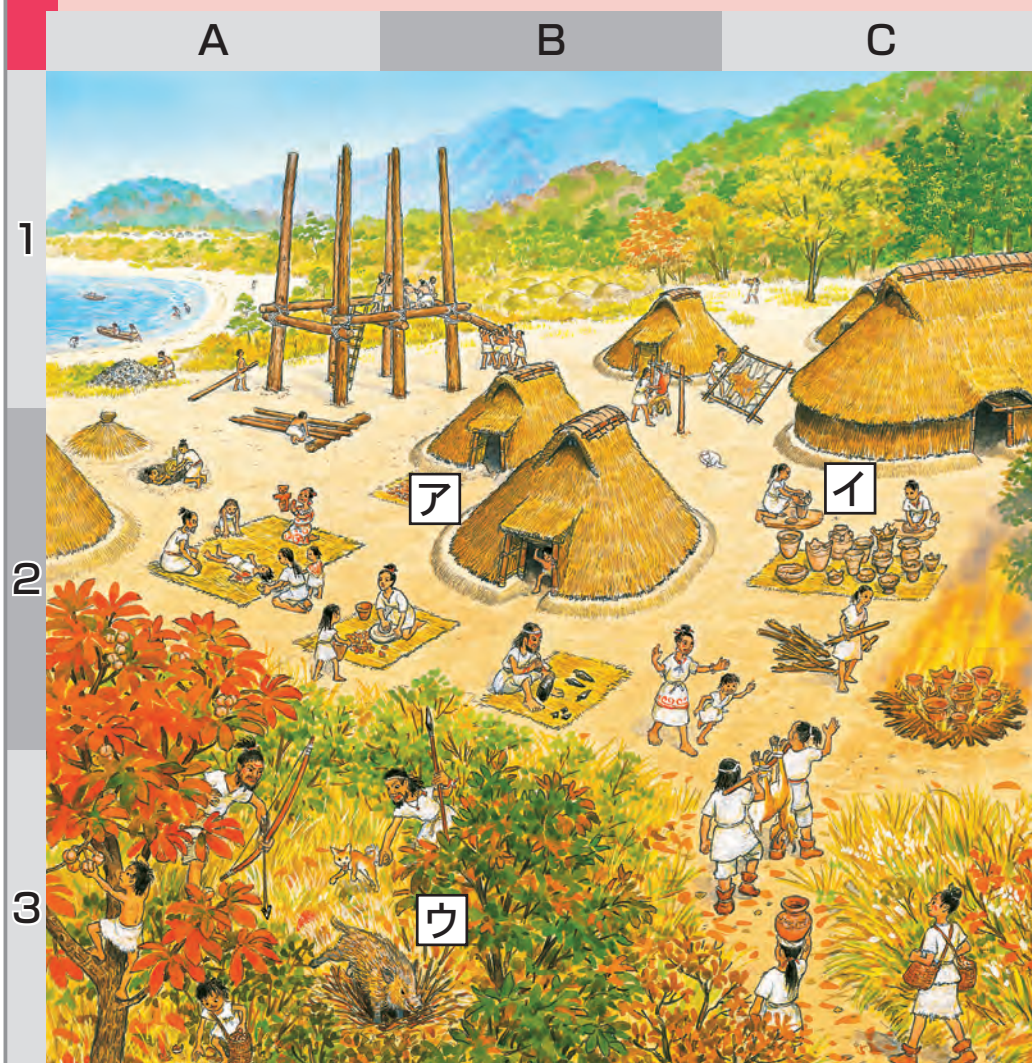


帝国書院

中学校歴史 18ポイント A5版

タイムトラベル①②

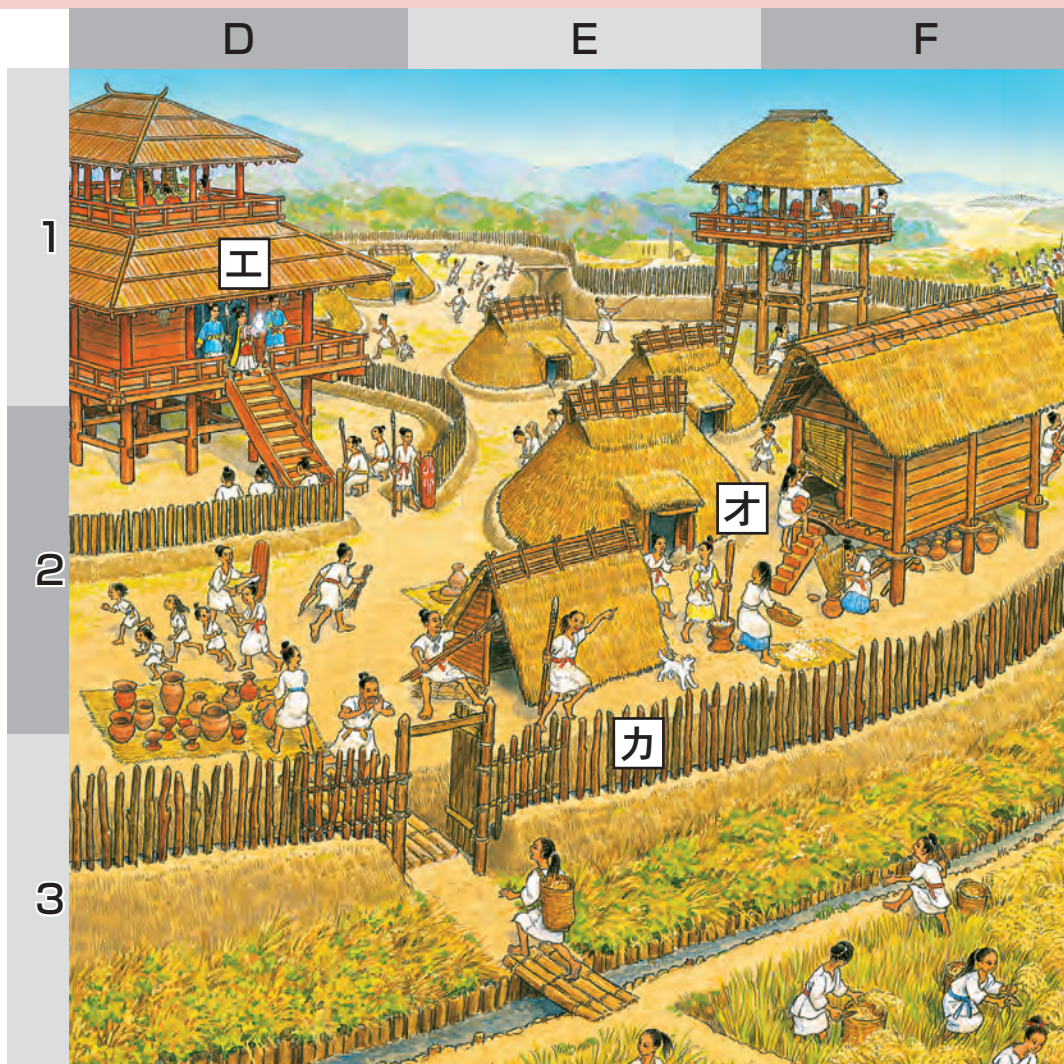
じょうもん
縄文時代をながめてみよう
(紀元前35～前20世紀ごろのある場面)



20-1

158

やよい
弥生時代をながめてみよう
(紀元1～3世紀ごろのある場面)



21-1

159



次の場面を探してみよう！

次の場面は、**ア**～**カ**のどれにあたるか、()
に記号を入れてみましょう。

- ヒント** ①(⇒ **22-4** ページ) ②(⇒ **23-4** ページ)
③(⇒ **24-3** ページ) ④(⇒ **22-1** ページ)
⑤(⇒ **24-7** ページ) ⑥(⇒ **22-6** ページ)

- ①、穴を堀り、その上に屋根をつけた住居に住んでいます。()
- ②、床を高くした倉庫に、収穫した米を運んでいます。()
- ③、集落のまわりには、柵と濠がめぐらされています。()
- ④、落とし穴を使って、いのししをつかまえています。()
- ⑤、青銅の鏡をもちいて、まじないを行っています。()
- ⑥、縄などで、土器に模様をつけています。()

20-2

160




私たちは原始げんしの日本列島にきています。

20-1 ページは、縄文じょうもん時代といわれる時代で、東北地方のある集落のようすです。21-1 ページは、弥生やよい時代といわれる時代で、九州地方のある集落のようすです。

二つの時代のタイムトラベルを比べてみると、道具や建物などに変化したものや変化しなかったものがあります。どのようなところに各時代の特色があるのかを考えながら、ながめてみましょう。

小学校で学んだおもなできごと

じょうもん 縄文時代	やよい 弥生時代		こぶん 古墳時代
約1万年前 日本列島が 大陸から切 りはなされる	紀元前 3世紀 いなさく 稲作 が伝わ る	紀元3世紀 卑弥呼が わ 倭国の 女王と なる	 5世紀 ヤマト王権 せいりよく が勢力 を広げる ↑① ひみこ 卑弥呼

21-2

第2章

東アジアの中の倭(日本)

22-1

1

縄文^{じょうもん}から弥生^{やよい}へ の変化

学習課題

縄文^{じょうもん}時代から弥生^{やよい}時代にかけて、人々の生活はどのように変化したでしょうか。

どき 土器が生まれた縄文時代

氷期^{ひょうき} (→ 13-3, 13-4 ページ) が終わり、海面が上昇^{じょうしょう}すると、日本列島は大陸から切りはなされ、約1万年前に、ほぼ現在の姿^{すがた}になりました。日本列島では、気候が暖^{あたた}かくなったことで森林が広がり、食用となるどんぐり・くるみなどの木の実や、い

のしし・しかなどのけものが増えました。また、魚や貝もさかんとられるようになりました。

狩り（⇒ 20-1 ページウ）や漁（⇒ 20-1 ページA1）・採集（⇒ 20-1 ページA3）で得た食料の保存や煮たきのために土器を使うようになり、食べられる物の種類が増えて、食生活は豊かになりました

②。このころの土器は、表面に縄目の文様なわめがつけられていることが多いので縄文土器もんよう（⇒ 20-1 ページイ）③といひます。食生活の充実で人口も増え、地面に穴を掘り屋根をつけたたて穴住居ほ（⇒ 20-1 ページア）①に定住するようにもなりました。住居の近くには貝塚じゅうきよ（⇒ 20-1 ページA1）①ができました。また、

22-2

食物が豊かにみのあることなどをいのり、まじないに使うための土偶（⇒20-1 ページ A 2）④もつくられました。

青森県の三内丸山遺跡^{さんないまるやまいせき}では、当時の人々が、すぐれた技術で大きな建物をつくり（⇒20-1 ページ B 1）、たいへん遠い地域と物の交換^{こうかん}を行っていたことがわかっています。こうした生活が続いた約1万年前から紀元前3世紀ごろまでの時期を縄文時代^{じょうもんじだい}、またその文化を縄文文化といいます。

① 集落近くのごみ捨て場のことで、貝がらだけでなく、石器^{せっき}や土器^{どき}などがふくまれ、当時の人々の暮らしを知ることができます。

22-3

164

↓① たて穴住^{じゅうきよ}居での暮らし

〈画：安芸早穂子氏 成美堂出版『全国訪ねてみたい遺跡 100』〉



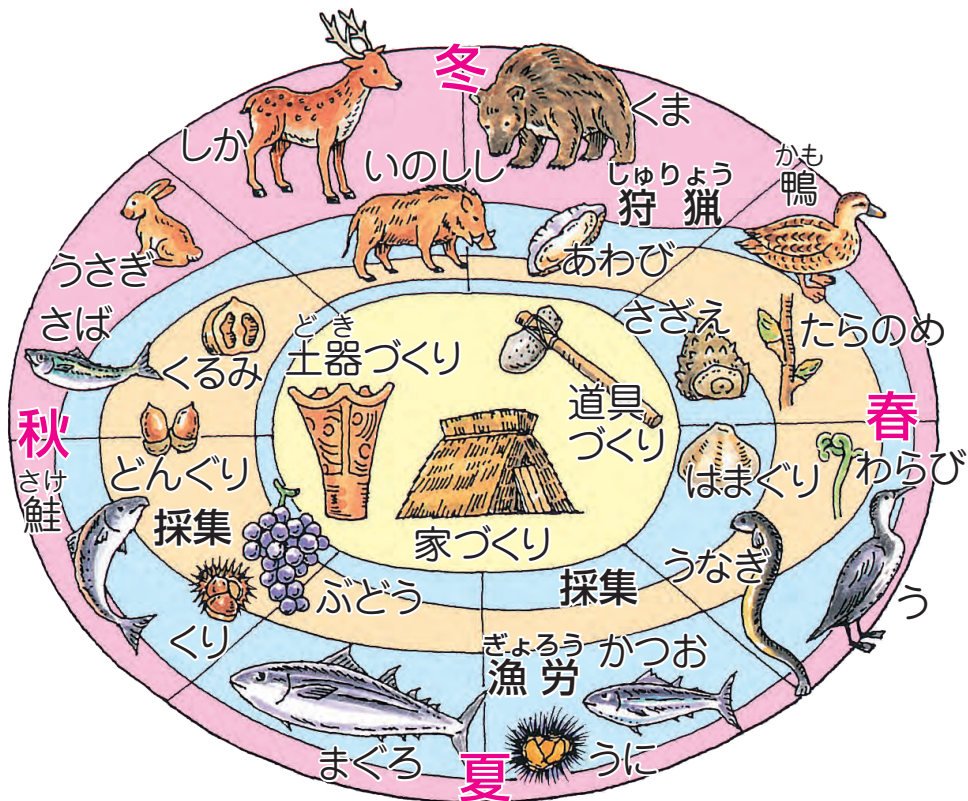
縄文
〜
弥生

22-4

165

中学校歴史 18ポイント A5版

かいづか じょうもん
 ↓② 貝塚などからわかる縄文時代の人々の食生活



じょうもん やよい どき
 縄文時代と弥生時代の土器にはどのような違いがあるのかな。



22-5

↓③ じょうもんどき
縄文土器



(全長約32cm)
〈青森県出土『深鉢形土器』
東京国立博物館蔵〉



**国
宝** (全長約47cm)
〈新潟県出土
『火焰型土器』
十日町市博物館蔵〉

どぐう
↓④ 土偶 女性の形をしているものが多いといわれています。〈左 青森県出土 東京国立博物館蔵 重要文化財, 右 山形県出土 山形県立博物館蔵〉



(全長約34cm)



(全長約45cm)

22-7

168

いなさく 稲作が広まった弥生時代

縄文時代の終わりごろ、中国や朝鮮半島などから北九州へ渡来した人々が稲作を伝え、稲作は西日本から東日本へと広まってきました。このとき渡来した人々と縄文人が少しずつまじり合い、のちの日本人や文化が形づくられていきました。土器も縄文土器よりうすくてかたく、米の保存・煮たきに適した弥生土器（⇒ 21-1 ページ D 2）⑤がつくられるようになりました。

稲作には多くの人々が協力して作業することが必要でした。人々は木製の鋤や鋤でたがやし、水田を広げました。収穫した稲は石包丁や鉄製の鎌で穂先をつみ取り（⇒ 21-1 ページ F 3）、稲穂からもみ

がらを取り去るには、きねとうすを
使いました(➡21-1 ページE2)。また水田
近くの台地に定住してムラ(集落)をつ
くり、たて穴住居(➡21-1 ページE2)に
住みました。稲を蓄^{たくわ}えるための高床倉庫^{たかゆかそうこ}(➡
21-1 ページオ)⑥もつくられました。

稲作とともに、青銅器^{せいどうき}(➡15-7 ページ)
や鉄器(➡16-2 ページ)も中国や朝鮮
から伝わりました。銅鐸^{どうたく}⑦や銅劍^{どうけん}⑧・
銅矛^{どうほこ}などの青銅器(➡21-1 ページD1)
は、豊作を神にいのる祭りの道具として使
われました。青銅器よりかたい鉄器は、武
器や工具として用いられました。この時代を
弥生時代^{やよい}、その文化を弥生文化といい、紀元
前3世紀ごろから紀元3世紀ごろまでの約
600年間続きました[2]。ただし、日本列島

23-2

全体にいつせいに稲作が広まったわけではなく、縄文時代と変わらない狩りや漁の生活を続けていた地域もありました（➡

25-8 ページ）。

② 近年、土器^{どき}についておこげ^{たんかまい}（炭化米）の科学的な分析^{ぶんせき}によって、弥生時代^{やよい}の始まりは、これまでよりも古い紀元前10世紀と考える説も出されています。

⑤ 弥生土器^{やよいどき}（2世紀ごろのもの）弥生土器の呼び名は、明治時代に現在の東京都文京区^{ぶんきょう}弥生から土器が出土したことからつけられました。左から「高坏^{たかつき}」「つぼ」「かめ」。〈大阪府出土 東大阪市立郷土博物館蔵〉



（全長約22cm）



（全長約27cm）



（全長約25cm）

23-3

↓⑥ 秋の収穫のようす

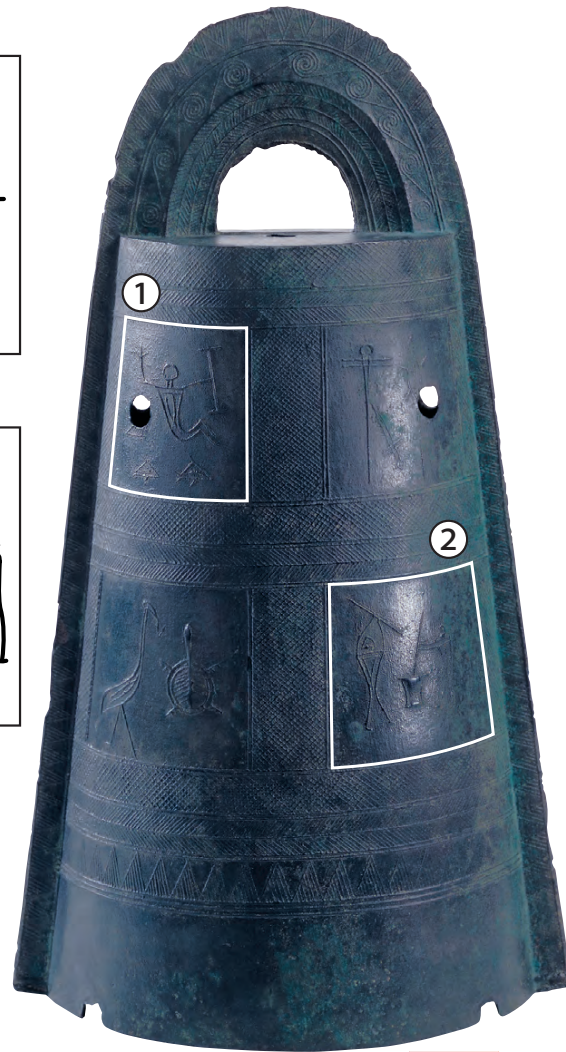
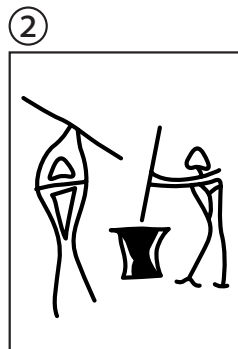
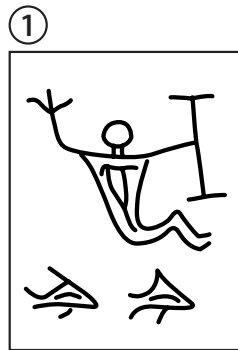
〈復元模型 大阪府立弥生文化博物館蔵〉




23-4

172

↓⑦ ^{どうたく}銅鐸（右）と表された^{もよう}模様（左2点）
〈兵庫県出土 神戸市立博物館蔵〉



(全長約39cm) 

23-5

173

縄文
〜
弥生

↓⑧ ^{こうじんだにいせき} ^{どうけん} ^{いずも} 荒神谷遺跡の銅剣（島根県出雲市）

この遺跡では銅剣 358 本・^{どうほこ}銅矛 16 本・^{どうたく}銅鐸 6
個が見つかりました。一箇所に埋められた理由ははっ
かりしていません。

〈島根県教育庁埋蔵文化財調査センター提供〉



23-6

174

確認しよう

じょうもん やよい とくちょう
縄文時代と弥生時代の特 徴

を、本文からそれぞれ二つ以上書き出してみま
しょう。

説明しよう

じょうもん やよい
縄文時代から弥生時代にか け

て生活が変化した背景を、いなさく
稲作とかかわらせて
説明してみましょう。